

JAL愛媛原告を支える会

あの空へ
帰ろう

ニュース

DC-8をバックに
若かりし頃の大池さん（右端）
左端は争議団の白井さん

発行：JAL不当解雇とたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 TEL 089-945-4526



いつも変わらぬご支援をありがとうございます。

振り返ってみれば、私のJAL人生は「イレギュラー」の連続でした。初フライトで、急病人の第一発見者となって以来、いろいろなトラブルに遭遇しながら、33年を過ごしました。幸いにも、身の危険を感じるような目に遭うことはありませんでしたが、……たとえば

ニユーヨークを離陸時、エンジンが鳥を吸い込んでダメージを受け、燃料を捨てて、ニューヨークにUターン。代わりの

エンジン到着まで24時間待ちました。

北京離陸直後に一つのエンジンが止まってしまい、即、引き返し。日帰りのはずが北京泊まりとなりました。

仙台空港よりハワイ行チャーター便に乗務するため、成田→札幌→仙台と飛行機を乗り継いで、前日に仙台に到着。翌夜、

空港に出席したら、成田から飛んでくるはずの飛行機が壊れてしまつて、フライトキャンセル。次の日、新幹線で帰京。

16日間の南回り（ロンドン

行き）が、バンコクの空港閉鎖により、バンコクで待機していた我らは、19日間のアテネ行きに変更（乗務する機種も変わりました）。

アンカレッジ経由の北回り

でロンドン滞在中、南回りに欠員が出て、私に白羽の矢が当たり、ロンドンから一人、ローマへ飛ばされました。

香港滞在中、台風の直撃を受け、ホテルに缶詰め2日間。マニラでも1日。（裏面へ続く）

“現場復帰まで応援”

日本国民救援会愛媛県本部
佐藤 壽兼

私は日本の会社の飛行機には乗りたくないの、国内は仕方がありませんが、海外へ行くときには外国の会社の飛行機に乗っています。日本人のCAは楽しそうに仕事をしている風ではないし、話しかけるのも迷惑かなと思う雰囲気だからです。他方、一例を挙げるとAIR CANADAを利用した時には、決まった仕事が済むとCAさんたちは隅のほうに集まって冗談を言い合ったりして楽しそうにしていたし、私が隣の座席の年配の夫婦と仲良くなっていたのを知ったのか、着陸後に機内から出ようとしていると、年季の入ったCAのチーフ

に呼び止められ「カナダ人夫婦に親切にしてくれたありがとう。またすぐにエアーカナダに乗ってカナダへ来てください」と言われ楽しかった思い出があるからです。

しかし、JALの林さんや大池さんの話を聞く中で、JALという会社の無責任な経営体制を知り、CAさんたちの大変さが分かりました。現場からの率直な意見を言う人たちを排除するなど言語道断です。一日も早く解雇を撤回しベテランのパイロットやCAを現場へ復帰させてもらいたいと思います。そうなるまで応援したいし、JALで海外へは行くことはありません。

「見て見ぬふりをしてはいけません」

西予市在住 大池ひとみ



ストライキのため、飛行機が日本を出発できず、ハンブルグで延泊することとなつたので、すが、ホテルが満室で追い出され、季節外れの海沿いのリゾートホテルに連れて行かれまし

東京～バンコク～カラチを
経由してアテネにやつてくる飛
行機が途中で故障して、来なく
なったことがありました。南回
りは週に1便しかありません。

ギュラーの数々です。他にも、お客様同士の殴り合い、客室乗務員への暴力（翌日になつても、ほつぺたに5本指の跡が赤く残るほどの平手打ち）、座席でのいかがわしい行為、精神を病んで奇行を繰り返すお客様、乱気流（怪我人こそ出なかつたものの、客室が真っ赤に染まりました……赤ワインが飛び散つて）。

ニユーヨークやアテネやロン
ドンなどの都市が出てきて、い
いなあ、と思われた方もいらっ
しゃるかもしれません。でも、
考えてみてください。スケジュ
ールが狂うと、歯医者の予約、
ボイフレンドとのデート、友
人の旅行、自分の結婚式でさ
え、ダメになつちやうんですよ。
イレギュラーがなくとも、スタ
ンバイで呼び出されれば、その
あとのスケジュールが全部崩れ
てしまい、習い事もできません。
今のヨーロッパ線は2泊4日
ですが、直行便ができるまでは

2週間でした。南回りや南米はそれ以上です。その間、家を空けるということは、家のことが何にもできないということです。途中で日本に帰ることはできません。幼子をこの手に抱くこともできず、家の食事も洗濯

も掃除も、親を病院に連れて行くこともできず、犬の散歩にも行けないわけです。もちろん楽しいこともたくさんありました
が、そういう過酷で不安定な日々の中で長年仕事をしてきた
ということをわかつていただき
たくて並べてみました。

その上に30回以上のダイバート（代替着陸）があります。霧や台風や強風や雪などの気象条件の悪さや、飛行機の故障などのために目的地ではない別の空港に行ってしまうなんてことは、ほかの人に聞いても、多くて3回とか4回とか、そのくらいなのです。30回を超えるなんて、ちょっと普通じやないですね。ギネス級です。その話しが披露したいです。



第90回愛媛中央メーデー 壇上で訴える争議団

勣な精神を持った者は神と結託する。だが、弱者は悪魔と手を結ぶ。それは、衝撃が起るまでも、誰にもわからない。」と言う台詞が出てきます。まさにそのとおりでした。

34年目にして、最大のイレギュラーに見舞われたわけですが、「おかしいことはおかしい」と声をあげ、差別されても、解雇されても、明るく元気に前を向いて闘つていることを、私は誇りに思います。疲れ果て心折れそうになつたとき、手を差し伸べてくれる仲間や励まして下さる支援者の方々が「悪魔の囁き」から救つてくれているんだなあと感じます。

新人の頃、先輩に言われたことを思い出します。「急いで客室の通路を歩いているとき、床にゴミが落ちていたとします。そのとき、しゃがんでそれを拾わないで、次に通つたときは、平気で跨いで行つてしまします。見て見ぬふりをしてはいけません。」現実から目をそらさず、しつかり物事を見て判断し、原告団が一致団結して皆様と共に闘えば、きっと明るい未来が待つていると信じています。

職場復帰できるまで、諦めないで頑張ります。さらなるご支援を引き続き、よろしくお願ひ致します。



2019. 4. 23 JR前宣传を終えて